

共通基盤科目 外国語科目の特徴と履修

(1) 外国語科目の履修方法および進級要件・卒業要件単位数

外国語の運用能力は、現代社会を生き抜く国際人に要求される素養のなかでも、もっとも基本的で不可欠なものです。経営学部では、8つの言語〔英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、日本語（留学生向け）〕の科目を設けています。その中から、すべての学生が自らの学修の関心に応じ、1つ以上の外国語を選択し、そのうちの1外国語科目については8単位を「卒業要件単位数」として必ず履修する必要があります。

複数の外国語を履修することや、選択した外国語に関して8単位を超えて履修することは自由であり、そのようにして取得した単位は、専攻科目の「選択外国語科目」として卒業要件単位数に算入することができます。

〔履修方法について〕

日本語を母語とする者は、日本語を除く7外国語の科目から、1年次前学期に4単位以上および1年次後学期に4単位以上、履修することが望まれる。

日本語以外の言語を母語とする者は、日本語を1年次前学期に4単位および1年次後学期に4単位履修しなければならず、さらに母語以外の外国語科目も履修することができる。ただし、能力検定試験等で一定の水準以上の日本語能力を有すると認められた場合は、母語および日本語以外の外国語科目を履修することができる。この履修方法は、外国人留学生および外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）に適用される。

〔「卒業要件単位数」の8単位について〕

どのように外国語を選択しても、最低1つの言語で8単位を取得しなければ卒業できません。2つ以上の言語にまたがって取得した単位の合計が8単位であっても、「卒業要件単位数」を充足したとはみなされません。

〔3年次への「進級要件」に関わる単位数について〕

2年次から3年次への進級要件を充足するためには、複数言語で8単位以上を修得しても構いません。

「進級要件」・「卒業要件」単位数を充足するための1年次配当の外国語科目は、図表5のとおりです。

<図表5 1年次配当の外国語科目>

科目区分	授業科目	配当学期	単 位	卒業要件単位数
選択必修	基礎英語 ・	前	4	4
	初級英語 ・	前	4	
	中級英語 ・	前	4	
	上級英語 ・	前	4	
	基礎英語 ・	後	4	4
	初級英語 ・	後	4	
	中級英語 ・	後	4	
	上級英語 ・	後	4	
	ドイツ語 ・	前	4	4
	ドイツ語 ・	後	4	4
	フランス語 ・	前	4	4
	フランス語 ・	後	4	4
スペイン語 ・	前	4	4	
スペイン語 ・	後	4	4	

	ロシア語 ・	前	4	4
	ロシア語 ・	後	4	4
	中国語 ・	前	4	4
	中国語 ・	後	4	4
	韓国語 ・	前	4	4
	韓国語 ・	後	4	4
	日本語 ・	前	4	4
	日本語 ・	後	4	4
				計 8単位

注1：英語については、プレイメントテストの結果にもとづき、「基礎英語」、「初級英語」、「中級英語」、「上級英語」のいずれかの履修科目が指定される。

注2：ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の場合は、半期ずれて後学期に開講される ・ および前学期に開講される、もある。

注3：2011年度入学者から、従来の「朝鮮語」科目を「韓国語」科目に名称変更した。

いずれの外国語でも前学期と後学期にそれぞれ4単位ずつ履修することが望ましく、その4単位の内訳は週2回開講の科目に対して2単位ずつ与えられます。例えば、ドイツ語を選択した学生は、通常であれば前学期に「ドイツ語（週2回2単位）」と「ドイツ語（週2回2単位）」を履修し、後学期には「ドイツ語（週2回2単位）」と「ドイツ語（週2回2単位）」を履修することになります。それぞれの科目は週2回の講義で構成されているので、学生のみなさんには、1年次において前学期・後学期とも、最低週4回の外国語の授業を受講することが望まれます。

また、日本語を除く7外国語には、2年次配当の上級外国語科目（例えば、英語では「特修英語(上級)」）が設けられています。これらの科目は、英語では「卒業要件単位数」の8単位、英語以外ではそのうち6単位を充足した上で、さらに外国語の学習を続けることを希望するみなさんのために設けられています。これら上級外国語 ・ ・ ・ はそれぞれ週1回授業の1単位科目であり、この中から好きな科目を必要なだけ履修することができます。

ここまででは、主に、どの外国語にも共通の特徴を述べてきました。以下では、選択する外国語によって履修の仕方が異なる点や、特別な制限のある個別の特徴について述べます。

(2) 各外国語履修の特徴と注意事項

A) 英語を履修する場合

英語は、多くの学生のみなさんが既に6年間以上学習してきた言語であり、海外経験の有無などをも考慮すると、各学生の必要とする教育内容にはかなりの幅があると思われます。経営学部には、各学生の関心と能力にできるだけきめ細かに対応した授業を行うために、**習熟度別**の英語科目を設置しています。英語を選択する学生は、前学期・後学期それぞれの学期にむけて行われる**プレイメントテスト**を受験し、その結果にもとづき「基礎英語」、「初級英語」、「中級英語」、「上級英語」のいずれかの授業科目が各自の履修可能な科目として指定されます。従って、プレイメントテストの受験が履修の条件です。(図表6参照)英語を選択するみなさんは、まずオリエンテーション期間の指定された日時にプレイメントテストを受験してください。後日、その成績により履修すべき授業科目と所属すべきクラスが発表されます。(例:「上級英語 a」や「中級英語 e」のように、各レベル内のクラスが学籍番号と共に示される。)みなさんは、自分の指定されたクラスと担当教員を確認して最初の授業に出席した後に、履修登録を行います。プレイメントテストを受験せず、クラス指定を受けないまま履修登録をしても、正規の履修登録とは認められません。仮に、履修を希望するにもかかわらず、プレイメントテストを受験できない正当な理由のある場合は、速やかに教務課へ相談してください。

習熟度別の授業科目を設置するのは、学生のみなさんが常に習熟度のより高い授業科目へと飛躍する意欲をもって、自分の着実な進歩を意識しながら学習に励んでもらいたいからです。次の例に示すように、みなさんの履修する英語

科目は、プレイメントテストの結果により前学期と後学期で変化する可能性があります。

ある学生Sさんが、入学時のプレイメントテストで「中級英語」に相当する得点を取った場合、Sさんは1年次前学期に「中級英語（週2回・2単位）」と「中級英語（週2回・2単位）」を受講し、英語の授業は合計週4回で4単位分受講することになります。Sさんは1年次前学期の終わりに再度プレイメントテストを受け、その得点に対応する授業科目を後学期に履修します。前学期と同じ習熟度の授業科目（この場合、「中級英語」）の・を履修する場合がありますし、前学期より習熟度の高い科目（この場合、「上級英語」）の・を履修する場合があります。反対に、前学期より習熟度の低い科目（この場合、「初級英語」または「基礎英語」）の・を履修することになる場合もあります。

1年次で「卒業要件単位数」の8単位はすべて修得できますが、2年次以降も英語科目（基礎・初級・中級・上級英語Ⅰ～）をさらに履修する学生は、決められた日時（掲示板等で通知する）に再度プレイメントテストを受験し、その成績が1年次に既に履修済みの科目より高い習熟度の科目に相当する場合、その授業科目の受講資格を得ることになります。その場合、・の2科目（後学期ならば・の2科目）のうち、2科目とも履修しても良いし、どちらか一方だけを履修しても構いません。

2年次以降に「卒業要件単位数の8単位」を充足した上に、さらに英語科目の履修を希望する者で、既に「上級英語」の単位を2単位以上修得済みの場合は、「特修英語（上級）・・・」の中から好きな科目を必要なだけ履修できます。「特修英語（上級）・・・」は、それぞれ週1回開講され、1単位の科目です。

また、これまでに「中級英語」の単位を2単位でも修得した実績の有る者、又は1年次に初級・基礎レベルであっても、プレイメントテストを受験して「中級英語」の受講資格を得た者は、「特修英語（中級）・・・」の中から好きな科目を必要なだけ履修できます。「特修英語（中級）・・・」は、それぞれ週1回開講され1単位の科目です。

大学の成績として記録に残すことを考えれば、最終的には「上級英語」まで履修することが理想的でしょう（成績証明書には、「基礎」、「初級」、「中級」、「上級」といった習熟度を表す科目名が明記されるので、同じ単位数であっても社会的な評価は異なることに注意し、少しでも上位グレードの授業科目を履修し、単位修得できるように努力してください）。

もちろん、どの習熟度の授業科目を履修するにしても、着実に進歩すべく努力することが重要です。また、専攻科目が多くなる2・3・4年次になると、時間割の重複などにより履修選択が大変困難になるので、本来の配当年次・学期に必要な単位を履修するべきです。何らかの理由により、1年次において「卒業要件単位数」の8単位を履修できなかったみなさんは、単位修得のできなかつた不足分の単位を2年次に再度履修しなければなりません。ただし、1年次に履修して単位を修得済みの科目と、同一名称の科目を再度履修することはできないので注意してください。再履修が必要である場合は、プレイメントテストを受験して新たにクラス指定を受けるか、前もって教務課において、具体的な所属クラスについての指示を受ける必要があります。

< 図表 6 英語の履修条件と履修可能な科目 >

< 履修条件 >

< 履修可能英語科目 >

<p>1 年次 前学期</p>	<p>プレイスメントテスト受験</p> <p>4 月オリエンテーション期間中のプレイスメントテストにより、上級～基礎レベルが指定される。各レベル内はさらに成績順にクラス分けされ、上級 a、中級 e というようにアルファベット順に指定される。</p>	<p>上級英語 ・</p> <p>中級英語 I・</p> <p>初級英語 ・</p> <p>基礎英語 ・</p>	<p>TOEFL 講座 ・</p> <p>中級英語上位以上のレベルの希望者から選抜</p>
<p>1 年次 後学期</p>	<p>プレイスメントテスト受験</p> <p>前学期終了時（7 月）実施のプレイスメントテストにより、新たにクラス指定</p>	<p>上級英語 ・</p> <p>中級英語 ・</p> <p>初級英語 ・</p> <p>基礎英語 ・</p>	<p>TOEFL 講座 ・</p> <p>中級英語上位以上のレベルの希望者から選抜</p>
<p>2 年次以上 前/後学期</p>	<p>プレイスメントテスト受験</p> <p>1 年次同様、前学期/後学期ともプレイスメントテストを受験 < 対象者 > 修得済み科目よりさらに上位グレード科目の受講資格を得ようとする者 これまでに何らかの理由で必要な英語科目の単位修得ができなかった者 現在基礎・初級レベルであるが、次学期に特修英語（中級）の受講資格を得ようとする者</p> <p>中級英語 2 単位以上修得者</p> <p>上級英語 2 単位以上を含む 8 単位修得者</p>	<p>上級英語 ・ / ・</p> <p>中級英語 ・ / ・</p> <p>初級英語 ・ / ・</p> <p>基礎英語 ・ / ・</p> <p>特修英語（中級） ・ / ・</p> <p>特修英語（上級） ・ / ・</p>	<p>TOEFL 講座 ・ / ・</p> <p>中級英語上位以上のレベルの希望者から選抜</p>

TOEFL 講座の受講について

経営学部では、グローバル人材育成を目的とした留学（学内交換留学：アメリカ、イギリス、オーストラリア、カナダ、経営学部BSAP：マレーシア等）を支援するために、派遣の条件となるTOEFLのスコアアップを主な目的としたTOEFL 講座Ⅰ・（前学期）・（後学期）を1年次より開講します。受講資格は、プレイスメントテスト受験の際に希望調査を行い、「上級英語」の判定を受けた希望者および「中級英語」の上位レベルの判定を受けた希望者の中から、原則としてプレイスメントテストの成績順に15人程度を選抜します。Ⅰ～のそれぞれが週2回授業を行う科目であり、各自の留学計画により、受講の仕方を工夫してください。例えば1年次後学期や2年次前学期からBSAPに参加を希望するような場合は、基準点を超えるために週4回の受講を推奨します。学習効果を計るために学内で実施されているTOEFL(ITP)を数回受験する(有料)ことが義務付けられます。受講に関する詳しい内容は、別途掲示版等を通じて知らせますので、その指示に従ってください。

TOEFL 講座は大学の特別な支援を受けて長期留学プログラムと連動した形で運営され、選抜された学生だけが受講の機会を得るといった特別な授業なので、原則として全出席が求められます。真剣に将来国際舞台におけるキャリアを考える学生を対象とした授業科目です。

なお、TOEFL 講座で修得した単位は「卒業要件単位の8単位」には含まれないので、注意してください。

B) 英語以外の外国語を履修する場合

いろいろな分野での国際交流が進むなかで、英語のほか少なくとももう1外国語の習得がますます必要となっています。それは仕事や学問といった実用的な意味でも、また個人の成長という精神的な側面でも必要です。

経営学部が開講している英語以外の外国語は、ほとんどの学生にとって初めて学ぶこととなりますが、新しい外国語の習得は、知的好奇心を満たすとともに、世界を見る視野をいっそう拡大し、大学における専攻分野の学習を支えるだけでなく、これまで学習してきた外国語である英語をあらためて見直す機会ともなるでしょう。また、英語以外に他言語を習得することは就職活動にも有利に働きますし、将来の予期せぬ海外派遣や国外勤務に際しても大いに役立つことでしょう。

ア) ドイツ語の場合

ドイツ語で「卒業要件単位数」の8単位を満たそうとする学生のみなさんは・を同時に履修する必要がありますが、他の言語を主として履修しながらドイツ語も履修したいと考える場合は、もしくはの片方だけを履修することも可能です。ドイツ語で「卒業要件単位数」を満たそうとする場合、もし英語ならびに外国語以外のクラス指定科目と重複する場合は、教務課に相談し、この指定クラスを変更することができます。また、後学期にもドイツ語・（翌年前学期に・）を設けているので、後学期からドイツ語を始めることができますし、前学期もしくはの片方しか履修していなかったけれどドイツ語で「卒業要件単位数」を満たそうと考えなおし、本格的に学び始めることもできます。さらに前学期で不合格の場合、後学期で同科目の再履修をすることも可能です。

イ) フランス語の場合

フランス語で「卒業要件単位数」の8単位を満たそうとする学生のみなさんは・を同時に履修する必要がありますが、他の言語を主として履修しながらフランス語も履修したいと考える場合は、もしくはの片方だけを履修することも可能です。フランス語で「卒業要件単位数」を満たそうとする場合、もし英語ならびに外国語以外のクラス指定科目と重複する場合は、教務課に相談し、この指定クラスを変更することができます。また、後学期にもフランス語・（翌年前学期に・）を設けているので、後学期からフランス語を始めることができますし、前学期もしくはの片方しか履修していなかったけれどフランス語で「卒業要件単位数」を満たそうと考えなおし、本格的に学び始めることもできます。さらに前学期で不合格の場合、後学期で同科目の再履修をすることも可能です。

ウ) スペイン語の場合

スペイン語は2クラスを開講しています。したがって、英語との並行履修が可能であり、どちらの科目でも「卒業要件単位数」の8単位を満たすことができます。もちろん1年次に「スペイン語・」、2年次に「スペイン語・」を履修することもできます。万が一、外国語以外のクラス指定科目と重複する場合は、教務課に相談し、この指定クラスを変更することができます。また、後学期にもスペイン語・（前学期に・）を設けているので、後学期からスペイン語を始めることができますし、前学期不合格の場合、その後学期で同科目の再履修も可能です。

エ) 中国語の場合

中国語は複数のクラスを開講しています。したがって、他の言語との並行履修が可能であり、どの科目でも卒業要件単位数の8単位を満たすことができます。1年次に中国語・、2年次に中国語・を履修することもできます。2年次で上級中国語の履修を予定している場合は、1年次に中国語・・を履修する必要があります。

中国語・～は、～までの数字とa・bの記号の組み合わせのペア番号でペアを表わしており、週に2回同じペア番号の講義を履修しなくてはなりません。中国語・にはがありますが、中国語は中国語・を履修済みの2年次生以上対象のクラス、中国語は中国語・・を履修済みの2年次生以上対象のクラスです。

万が一、履修希望する科目の開講時間が外国語以外のクラス指定科目と重複する場合は、教務課に相談し、この指定クラスを変更することができます。また、後学期にも中国語・（前期に・）を設けているので、後学期から学修を始めることができますし、前学期に不合格となってしまった場合でも、同じ年の後学期に再履修することができます。

オ) ロシア語および韓国語の場合

ロシア語・（・）および韓国語・（・）は、同じ日（曜日）に開講されます。また、「ロシア語」科目については、半期ずれの同科目・（・）が開講されていませんので、不合格の場合は後学期での履修ができず、次年度での再履修となります。万が一、前学期で不合格科目が出た場合、3年次への進級要件単位数、および卒業要件単位数を考慮して、後学期では他の外国語科目を履修しておくことが推奨されます。なお、「韓国語」科目については、2010年度以前入学者に適用されている「朝鮮語」科目との合同クラスで開設される場合もあります。

カ) 日本語の場合

日本語は、ひとクラスの開講です。日本語（月・火）と（水・金）は前学期に開講します。日本語（月・火）と（水・金）は後学期に開講します。

[履修の注意事項]

以上の英語以外の外国語を履修する場合の注意事項を整理すれば、次のとおりです。

在学中4年間を通じて時間割の都合が付く限り、複数言語を履修することが望まれます。1年次において2外国語の履修を同時に希望する場合の例を図表7及び図表8に示しました。英語を主とした履修も、それ以外の言語を主とした履修も可能ですが、同一時間帯に希望する2外国語が重複し、1年次における2言語履修ができない場合もあります。ただし、履修を希望する一方の言語が、英語、中国語、スペイン語であれば、これらについては複数クラスが開講されているので、言語履修におけるクラス変更の可能性について、教務課に問い合わせてください。また、語学専用枠（図表7、8）の中で、語学以外のクラス指定科目との重複が生じた場合のクラス変更については、教務課に相談してください。

外国語の卒業要件単位数は合計8単位です。これは1外国語で8単位という条件ですから、英語も含めたすべての外国語から1言語を選び、その1言語のみで8単位を修得しなければなりません。したがって、選んだ外国語・・・は共通教養科目の共通基盤科目として必修科目に相当します。複数外国語を履修した場合は、当然ながら8単位以上を修得することになります。その場合8単位を超えた単位数は、専攻科目の選択科目の選択外国語科目として卒業要件単位数に算入することができます。

ローマ数字の・は文法主体の授業で、・は会話や視聴覚教材にもとづく実践的学習などを中心とする授業です。したがってからまでの科目を2年かけて履修したい学生のみなさんは、・を1年次に、・を2年次に履修することが望まれます。しかし、・を1年次に、・を2年次に履修することも可能です。

各外国語・・・は週2回行われる各授業を、同一教員が担当する場合も、2人の教員が担当する場合もあります。それぞれの授業の具体的な内容は各担当者により多様ですので、講義計画を熟読したうえで履修することが必要です。

履修登録した科目の単位を修得できなかった場合は、その科目を再履修しなければなりません。の単位（週2回2単位）を修得できなかった場合は、を登録履修することはできません。の単位（週2回2単位）を修得できなかった場合は、を登録履修することはできません。

ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語および韓国語の場合は、後学期にも・が開講されている（翌年の

前学期に ・ が開講される)ので、前学期に だけを取得した学生は、(週2回)と(週2回)を後学期に履修し、 だけを取得した学生は、(週2回)と(週2回)を履修することができます。そして、前者の場合は を、後者の場合は を、それぞれ2年次前学期に履修することになります。

後学期にも外国語学修を始めることができます。前学期に選択し一旦履修し始めた外国語を、後学期に変更して、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語および韓国語のいずれかの外国語を新たに履修し始めることは可能です。ただし、ロシア語および日本語の場合、半期ずれた授業の開講はないので、新登録や登録変更、あるいは再履修は翌年まで待たなければなりません。

英語・中国語・スペイン語以外の各外国語 ・ ・ ・ はそれぞれ1クラスのみが開講です。したがって学生のみなさんにはクラスを選択するという自由がありませんので、当該外国語の履修希望者は時間割に十分配慮してください。

2年次には、各選択外国語科目(ただし日本語を除く)にはそれぞれ上級が開講されています。この上級を履修登録するには、当該外国語の単位を6単位以上修得していなければなりません。ただし、卒業要件単位8単位に対する不足分2単位に該当する授業科目は、上級の授業と同時並行して履修することができます。また、これら上級 ・ ・ ・ はいつでも、どれでも単独に履修することができます。

1年次後学期からは同じく選択外国語科目として「特修外国語 ・ 」も開講されています。この科目は上級外国語を修得した学生や、SAで短期留学した学生諸君がさらなる向上を目指すと同時に、交換留学生応募資格として求められている語学検定の準備をも兼ね備える授業です。この「特修外国語」を履修登録するためには、当該外国語 ・ ・ ・ ,および上級 ・ ・ ・ から8単位以上を修得しているか、もしくは同等の語学能力を有する必要があります。上級との並行履修も可能です。

<図表7 2外国語を希望する履修モデル(英語とスペイン語の場合。またクラスE-Hは各曜日の両言語の時限を入替える)>

曜日 時限	月	火	水	木	金	土
1	英語 A-D (独・仏・西・韓・中 /)				英語 E-H (独・仏・西・露・韓・中 /)	
2	(独)	英語 E-H (独・仏・西・露・韓・日・中 /)				
3	スペイン語 (英語 E-H・仏・韓・日・中 /)	(中・韓)	(独)	英語 A-D (独・仏・西・韓・中 /)	スペイン語 (英語 A-D・露・韓・日・中 /)	
4		スペイン語 (英語 A-D・露・中 /)	(独)	スペイン語 (英語 E-H・韓・中 /)	(仏)	
5			(日, 中)			

- 注1: 英=英語, 独=ドイツ語, 仏=フランス語, 西=スペイン語, 中=中国語, 露=ロシア語, 韓=韓国語, 日=日本語
- 注2: 網掛けの時間枠は外国語専用枠である。この専用枠にクラス指定された他科目があっても、外国語科目が優先される。
- 注3: スペイン語にはクラス指定はない。したがって、E~Hクラスの場合はこの表の英語をスペイン語に、スペイン語を英語に読みかえること。また、スペイン語を中国語に読みかえれば、英語と中国語を並行履修する場合となる。
- 注4: 「選択英語」を除く各英語科目にはクラス指定があり、A~Dクラス対象とE~Hクラス対象のものに分かれている。したがって、希望する他言語の授業と重なっている場合のみ、クラス変更について教務課に相談することができる。

<図表8 3外国語を希望する履修モデル(ドイツ語またはフランス語を主とする場合)>

曜日 時限	月	火	水	木	金	土
1	独・仏 (英語 A-D・西 ・韓・中 /)				独・仏 (英語 E-H・西 露・韓・ 中 /)	
2	(独)	独・仏 (英語 E-H・西 露・韓・日 中 /)				
3	スペイン語 (英語 E-H・仏 ・韓・日 中 /)	(中・韓)	(独)	独・仏 (英語 A-D・西 ・韓・中 /)	英語 A-D (西語・露・韓 ・日・中 /)	
4		英語 A-D (西・露 中 /)	(独)	スペイン語 (英語 E-H・韓 中 /)	(仏)	
5			(日 , 中)			

注：このモデル以外の外国語を希望する場合は、その言語の と の時間割を調べ、上記8つの時間枠の半分を
 確定した後、次に希望する言語の時間割を調べる。ある言語によっては、第二希望の言語が8単位受講でき
 ないケースも出てくるが、その場合には2年次以降での履修を薦める。